

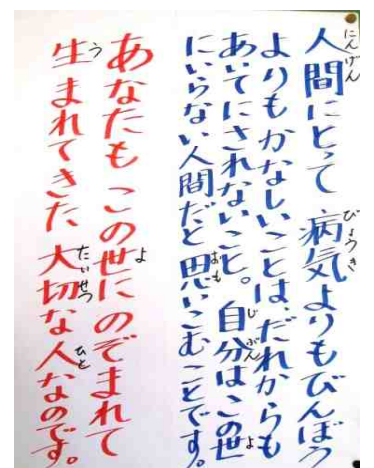
小学校の各学校の生活時程を見ると、大体、朝・帰りの会に挟まれ、教科・道徳等の授業に給食の時間や休憩時間がある。つまり、朝の会で一日が始まり、帰りの会で一日が終わるのが学校生活と言えよう。

しかし、ここ数年のことであるが、学力低下問題が叫ばれ、多くの学校で授業前に タイムという時間が設定されている。読書タイムやチャレンジタイム・スキルタイムなどであり、基礎的・基本的な読み・書き・計算の技能を高めようとしている。朝のスタートからの訓練的な練習時間で子どもの生活は、豊かに落ち着いたものになってきているだろうか。圧迫されたものになってないか心配する。

生きる力を育むためには、毎日の自分の生活を自分で切り拓いているという意識や感覚を育てることが肝要と思う。子どもが、学校生活(くらし)をもっと創り出して欲しいのである。このような自覚的にくらす子どもにするためには、朝の会を訓練的な練習時間にしてはならない。朝の会は、子どもたちの生活・学習仲間とのくらしの始まりであり、一日の生活の計画・めあてをしっかりと立てさせる時間と考えたい。また、今日一日の学ぶ意欲を喚起する場でもあり、自治能力を高めさせる時間としたい。

右は、本校のある学年の「朝の会・帰りの会」の内容である。歌声体操から音読としっかり声を出させることを大切にし、一日のめあて作りをメニューに入れている。このめあてを帰りの会で自己評価させている。また、さらに附属山口小学校発「フリートーク」を行なっている。このフリートークの詳細は下の文献に譲るが、子どもたちが笑顔で話し合い、笑顔で聴き合う。この日のこの学級の話は、もし携帯を持ったら着メロに何をいれるかという提供者から、子ども一人ひとりの日頃聴いている音楽の好みも笑いとともにたくさん出てきた。

学力の向上・定着は、実は温かな学習仲間の中で結実していく。実践者なら誰でも、学級の人間関係が学習に影響を強く与えることは経験的に分かっている。今、学びの土台づくりとして、心温かな学習仲間づくりを重視したい。何でも言える学級、何でも聴いてもらえる安心できる学級であれば、毎日が楽しいと思う。その裏にある教師のゆるぎない学級づくりへの信念を大切にしたいものである。



参考

村田辰明「温かい仲間関係をつくる朝の会・帰りの会」学事出版 2006年

桂 聖 「クイズトーク・フリートークで育つ話し合う力」学事出版 2006年